

小惑星「リュウグウ」の物質採取目指します！

—JAXA 宇宙科学研究所見学—

2月22日、校友8名で、「歩こう同好会」企画による<JAXA 宇宙科学研究所>見学が行われました。

同研究所は相模原市にあり、宇宙教育センター・宇宙探査イノベーションハブ、契約、財務、施設部門を含め、540名の職員で運営されています。研究内容は、国内大学・研究所・諸外国の宇宙機関と協力、衛星探査機・観測ロケット・国際宇宙ステーション等を使用して、特徴ある優れた学術研究を強力に推進しています。そして宇宙の謎を解明するだけでなく、地球環境問題の解決にも大きく貢献し、将来の新技术・産業の創出にも大いに役立っています。



2019年2月には、岩石の中に有機物や水が含まれる、C型小惑星「リュウグウ」(2018年12月、国際天文学連合承認により命名)に、小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げを成功させました。そして「リュウグウ」へのタッチダウンの成功により、地球・海・生命の起源と進化に迫ることが出来ました。同年4月には、衝突装置を使って同惑星に新たなクレーターを生成するという、世界初の試みにも成功しています。

*因みに小惑星リュウグウは直径約900Mの小さな天体で約7時間38分で自転しています。

(はやぶさ2 実寸大模型)



(当日参加した8名の校友)

尚、同研究所は水星磁気圏探査機

「みお」(MMO)を2018年10月に打ち上げ成功、現在水星に向けて順調に飛行しています。またこれからの計画として、火星衛星からサンプルを採集し、持ち帰る検討を進めています。

(伊東記)